夢に向かって

六年　木村　こころ

私の将来の夢は、医りょう関係の仕事につくことです。人の命をあずかる仕事で絶対にミスは許されません。医りょう関係の仕事に憧ばや従姉も看護師だということも医りょうに興味をもったきっかけの一つです。しかし、もう一つ、ある看護師さんとの出会いが私の夢を決定的なものにしました。

それは、五年前に、お父さんが、くも膜下出血で倒れたことです。お父さんは、とても優しくて、毎日、仕事も一生けん命にがんばっていました。そんなお父さんが、突然、倒れて、手術をして、しばらく危険な状態が続きました。ICUに入っての治りょうが続き、当時一年生の私と年中の妹は、お父さんの顔すら見ることができませんでした。

しかし、その当時の看護婦長さんが、少しはなれたところから会わせてくださいました。

「お父さん、がんばって。」

と、声にならない小さな声で言いながらしっかり手を振りました。すると、意識のないはずのお父さんが、私と妹の声に反応し、手を振ってくれました。

「たましいは、聞こえてる。思いが伝わっているよ。」

と、婦長さんが話してくださいました。その時の婦長さんの言葉やにっこり笑ってくださった顔を、今でもはっきり覚えています。お父さんばかりでなく、私たち家族にまで優しく接してくださり、寄り添ってくださいました。手術の時間が長かった時、毛布を持ってきてくださいました。お父さんが、ねむったままの時は、何度も、

「大丈夫よ。」

と、声をかけてくださいました。私たち家族は、

「このまま、お父さんを失ってしまうのではないのか…。」

20 × 20

と、不安で不安でたまりませんでした。婦長さんの優しい声かけで、どれだけ心がすくわれたか…。

「私も人のためになる仕事がしたい。大切な命に関わる職業につきたい。」

と、心に決めました。

今年は、新型コロナウイルス感染で、医療ようにたずさわる方々は、たいへんだと思います。目に見えない敵との戦いです。医療現場の方に感謝しかありません。

私は、まだ小学生で特別なことはできていませんが、医療ょう関係につくために、学校でしなければいけない勉強をしっかりがんばっていきます。そして、周りの人を大切に、思いやる気持ちを持ち続け、心の優しい人になりたいと思います。

20 × 20